

1. アンケート回答者の背景（年齢等）

- ・ 年齢 20代, 30代が, 81.6%を占める。
- ・ 医師経験年数 10～15年目が58.5%と最も多い。
- ・ 身分 大学院生, 研究生, 非常勤医が, 81.6%を占める。
- ・ 婚姻状況 未婚者40.6%, 既婚者56.3%である。
- ・ 子供の有無 無し 65.1%, ひとり 20.6%, 2人以上 14.3% である。

年齢 : 最小:26歳 最大62歳 平均:34.0歳

	人数	割合(%)
20歳代	17	26.2
30歳代	36	55.4
40歳代	8	12.3
50歳代	3	4.6
60歳代	1	1.5
計	65	100

医師になってから 何年目ですか? : 最小:3年 最大:37年 平均:9.8年

	人数	割合(%)
5年未満		
5年以上10年未満	8	12.3
10年以上15年未満	38	58.5
15年以上20年未満	9	13.8
20年以上25年未満	3	4.6
25年以上30年未満	4	6.2
30年以上	3	4.6
計	65	100

現在の身分 : 大学院生, 研究系, 非常勤医が, 81.6%を占める。

	人数	割合(%)
教官	11	16.9
非常勤医師	12	18.5
大学院生	24	36.9
研究生	17	26.2
その他	1	1.5
計	65	100

2. 現在の医局（科，教室）を選択する際に，次のことを考慮しましたか？

その医局の女医の存在，その女医の結婚や出産，その女医への上司の接し方は，いずれも考慮しなかったのが60～70%，考慮したのが20～35%，とても考慮したのが10%弱であり，勤務拘束時間も同様であった。

医局を選択する際に，考慮したこと

回答数（有効割合%）	とても考慮した	考慮した	考慮しなかった	無回答	計
医局員に女性がいるか	5 (8.8)	20(35.1)	32 (56.1)	8	65
その女性が結婚・出産しているか	5 (8.8)	11(19.3)	41 (71.9)	8	65
勤務拘束時間	5 (8.8)	14(24.6)	38 (66.7)	8	65
上司の その女性医師への接し方	4 (7.0)	15(26.3)	38 (66.7)	8	65

その他、この項目に対して寄せられた医局選択の動機として、

- ・ 教室選択に際して、先輩女医の存在など前述4項目は考慮しなかった（5名）
- ・ 仕事内容、希望する科、やりがいのある科なので選んだ（3名）
- ・ 男女平等に処遇され、指導が行われていると判断した（2名）
- ・ 子育てに理解があり、妊娠中・産休明けも仕事がしっかりできそうだと判断した（2名）
- ・ 某科を希望したが、入局制限を受けたから（1名）

3. 医局に入局する際に、教授など上司から、妊娠・出産に関して、何かストレスを感じることを言われましたか？

	人数	割合（％）
言われなかった	55	84.6
言われた	10	15.4
計	65	100

具体的には、結婚や出産する女医は仕事ができない、と言われたり、結婚や出産の可能性を理由に入局を拒否されたり、結婚か仕事かどちらか選択するように言われたりしているのは、40～50代の女医に多い（4名）

20～30代でも、入局時に結婚や出産の予定の有無を問われたり、結婚しているだけで仕事内容に制限を受けたりしている（3名）また、「結婚、出産をすることは困る」という旨を、研修先や赴任先の病院で言われている（3名）

逆に、女性を平等に扱うと強調されたり（2名）、「一人前の小児科医になるには自分で子供を育てることが必要」と言われた人もいた。

4. 結婚・出産に関して

a. 今後（も）、妊娠・出産したいと思いますか？

有効割合：回答されていた中での割合

	人数	割合（％）	有効割合（％）
思う	50	76.9	78.1
思わない	14	21.5	21.9
無回答	1	1.5	
計	65	100	

年代別で、20～30代においては、約90%の女医が、将来の妊娠・出産を希望している。

「今後（も）、妊娠・出産したいと思う」人で・・・その時に、仕事上の不安になることはありますか？

約85%（48人中41人）が仕事上不安になる事項あると答えている。

具体的な不安の内容として、

- ・ 妊娠・出産により診療の技術的なブランクが出ること（3名）
- ・ 出産や育児により、病院スタッフ、周りに迷惑をかける、または周囲の理解が得られない恐れ（7名）
- ・ 患者から 出産や育児をする女医への忌避（1名）
- ・ 子育てと仕事の両立、時間的や体力的な問題（3名）
- ・ 育児休暇や保育者の確保、病児保育の問題（4名）
- ・ 母体保護措置がとられるか否か（2名）
- ・ 復帰後の仕事の内容（処遇の問題も含めて）（12名）
- ・ 放射線被爆業務（2名）

などがあった。

「今後(も), 妊娠・出産したいと思わない」人・・・その理由は仕事に関係していることでしょうか

仕事上の理由ではない という答えが最も多かった。

他に, 具体的な意見として,

- ・ 他人へのしわ寄せを考えると希望しない (2 名)
- ・ 男性と対等に仕事がしたい (1 名) などがあげられた。

b. 同僚の女性が妊娠をされた時に, 何か協力できることはありましたか?

半数以上の人々が協力している。具体的な協力内容としては

- ・ 勤務の交替をした (6 名)
- ・ 体調の悪い時の仕事, または身体的に負担のかかる仕事の交替 (5 名)
- ・ 勤務時間の減少 (2 名)
- ・ 当直を替わる (6 名)
- ・ 主治医の交替 (2 名)
- ・ 先輩として相談にのる (5 名)
- ・ 変わって代務をしてあげた (6 名)
- ・ 仕事のカバー (1 名) などの回答があった。

c. 現在の職場で妊娠・出産時に保障されていることは? 保障して欲しいことは?

妊娠・出産時に保障されていることは? 保障して欲しいことは?

回答数 (有効割合%)	保障 されている	保障 してほしい	保障 は不要	無回答	計
妊産婦健康診査時間	21 (35.6)	34 (57.6)	4 (6.8)	6	65
妊産婦の通勤緩和	17 (30.4)	29 (51.8)	10 (17.9)	9	65
妊産婦の休憩時間	20 (35.1)	30 (52.6)	7 (12.3)	8	65
仕事内容の軽減化	22 (37.3)	30 (50.8)	7 (11.9)	6	65
被爆業務	30 (50.0)	28 (46.7)	2 (3.3)	5	65
育児休業	18 (30.0)	38 (63.3)	4 (6.7)	5	65

寄せられた意見として, 当然保護すべき問題であるが, 全然討議されていない部署・ユニットもあり, 上司は「保護する」と述べているが, 現実には不確実であり, 文章化されていないので, 制度化して明確にしてほしい (6 名), という意見や, 妊産婦に限らず, 休憩や休養する場所が欲しい (1 名), という意見もあった。また, 女性だけでなく夫も同様に育児休業がとれるようになるべきである (1 名), との意見もあった。また, 現状では論議もされておらず, 不明との意見 (2 名), もあった。

5. あなたの現在の職場のなかで, 母体保護について, とても良いと考えられるシステムがありましたらお書きください。今後の参考に致したいと思しますので, 是非とも教えて戴きたいと思します。その他, 何でも御意見をお寄せください。

寄せられた回答として

- ・ 医局はそれぞれのニーズに合わせて理解があります (1 名)
- ・ 外来予約時間の短縮 (1 名)
- ・ 休業後の職場復帰に際して, 拘束時間が少ない職場を配慮してもらえる (1 名)
- ・ 産休・育休期間中の研修援助 (希望者に脳波判読研修をサポート) (1 名)
- ・ 女性用の仮眠室や休憩室 (男性用もあり) (1 名)
- ・ 研究生身分ならば自分の裁量で時間の調整ができる (1 名)
- ・ 当直免除, 授乳期間を認める (1 名)

- ・ 保育室があり、とても助かっている（1名）
- ・ 臨床では主治医にならないこと（1名）
- ・ システムはありません（5名） などの回答があった。

その他、寄せられた意見として

- ・ システム化して、本人の負担や周囲への負担、また、本人の精神的負担を軽くしてほしい（2名）
- ・ 時差出勤を確立して、妊娠中は満員電車に乗らないようにしてほしい（1名）
- ・ 4～6ヶ月間の育児休業を認めてほしい（2名）
- ・ 妊娠の可能性がある場合は、自己申告して被爆業務をさけるべき（1名）
- ・ 妊娠、出産、育児期間は、給料を減らしてでも、時間的にゆとりのある職場で働けるようにしてほしい（1名）
- ・ 育児休業の1年間だけ、派遣の人に仕事をしてもらえばよいと思う（1名）
- ・ 結婚や妊娠により、パラメディカルに迷惑をかけるようならば、仕事をやめるべき（1名）
- ・ いいかげんな仕事をしたくない（1名）
- ・ 大学で結婚後も残っている女医さんは某科ではかなり少なく、少数では意見が出せない（1名）
との意見も寄せられた。

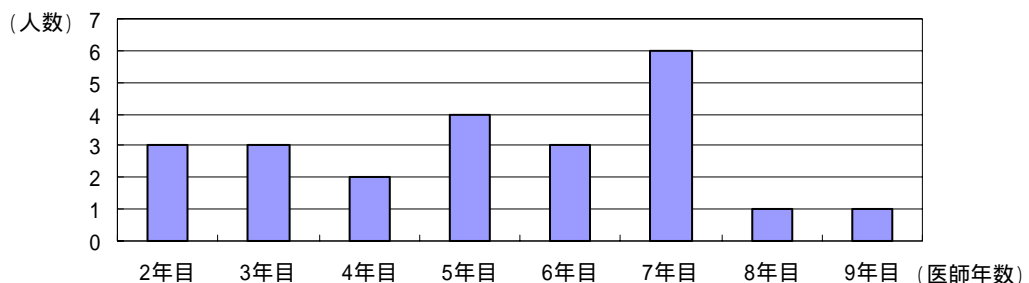
6. 妊娠・出産に関して（妊娠・出産経験者に対してお尋ねします）

- ・ 回答者年齢 最小：27歳 最大：62歳 平均：35.9歳であり、30代が、最も多い。

a. 医師になって何年目に妊娠・出産しましたか？

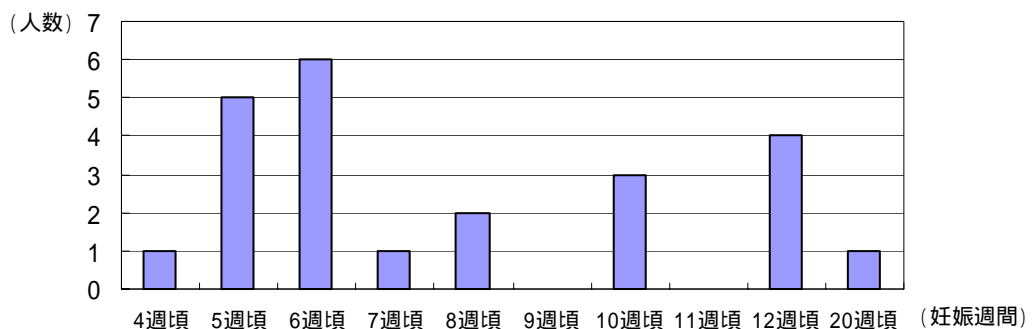
平均：5.2年目であり、30代が60%強で、医師になって5～7年目での出産が多い。

医師になって何年目に妊娠・出産しましたか？（N=23）



b. 妊娠したことをいつ頃上司に話しましたか？

妊娠したことを、いつ頃上司に話しましたか？（N=23）



平均：妊娠8.1週で、5～6週まで約50%、10～12週までに約95%以上が上司に報告し、遅い人では20週との回答もあった。

妊娠したことを上司に話した際に、何か言われましたか

言われた人のうち、9人余りが祝福され、励ましを受けている。業務に対して配慮する旨を伝えられている。他に、1名は、その後の仕事についての意志確認を受けている。一方、多くはないが3名が、産休・育児休暇をとられては困る（市中病院にて）、赴任できない、ひどい扱いを受けて切迫流産になった、との回答が寄せられた。

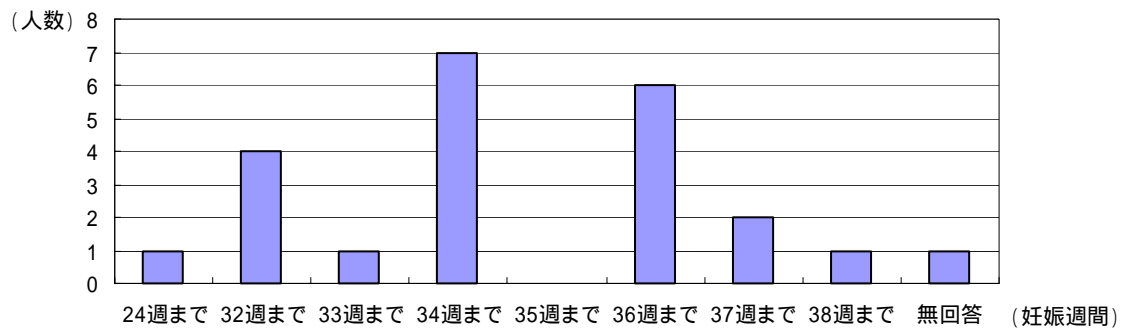
c. 周囲の職員の反応は？

好意的、かわらないを合わせると約90%、であった。中には当直交替を頼んでも無視された、という回答もあった。

	人数	割合(%)
好意的	13	56.5
かわらない	8	34.8
いやがられた	0	0.0
その他	2	8.7
計	23	100

d. 妊娠何週まで、仕事をしましたか？

妊娠何週まで、仕事をしましたか？(N=23)

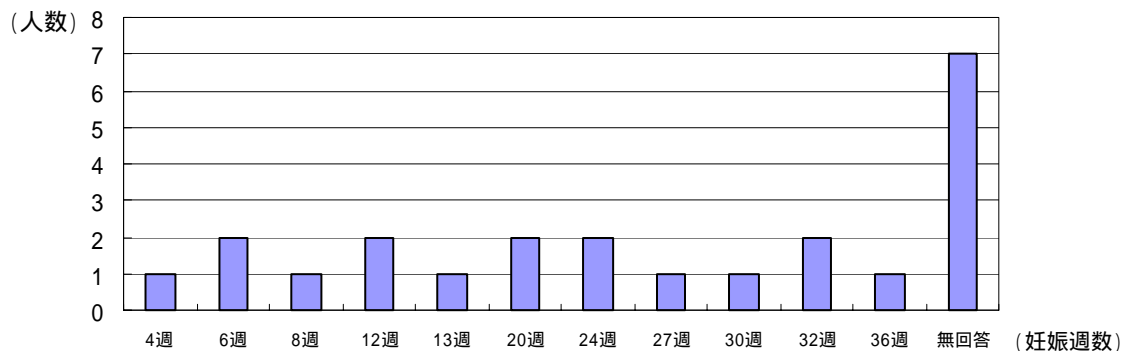


平均は34.1週だった。32~36週が80%弱、37~38週までが3名(13%)いた。

e. 当直業務はいつまでしましたか？

平均は19.1週だった。妊娠判明後から8週までが4名(25%)、12~27週が8名(50%)、30~36週が4名(25%)だった。当直が妊娠初期より免除された人と、中期・末期まで当直業務をした人とほぼ均等に分布した。

当直勤務はいつまでしましたか？(N=23)



f. 妊娠中、仕事の軽減はされましたか？

軽減されなかった 30%強，軽減された 70%弱であり，多くは軽減されている。

	人数	割合 (%)	有効割合 (%)
軽減されなかった	7	30.4	31.8
軽減された	15	65.2	68.2
無回答	1	4.3	
計	23	100	

g. 患者さんの反応は？

回答したうち，多くは好意的または変わらない，という回答だった。

	人数	割合 (%)	有効割合 (%)
好意的	8	34.8	38.1
かわらない	9	39.1	42.9
いやがられた	1	4.3	4.8
その他	3	13.0	14.3
無回答	2	8.7	
計	23	100	

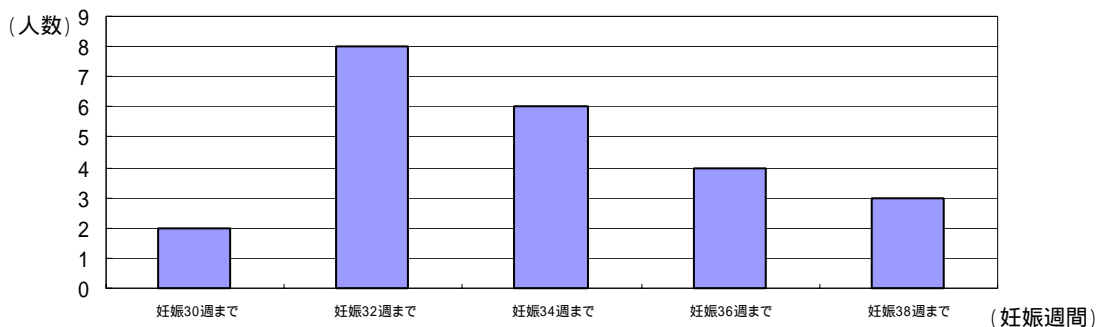
長く勤務していて，信頼関係ができてきている患者や家族では好意的，そうでなければ嫌がられる，または，バカにされている と感ずることも多いようである。

h. 自分自身の精神的，体力的に妊娠何週頃まで仕事は可能だと思いますか？

時間内業務について

平均：妊娠 33.8 週まで，32～34 週までが約 60%弱，他には 36～38 週までが約 30%，30 週までが 10%弱であった。

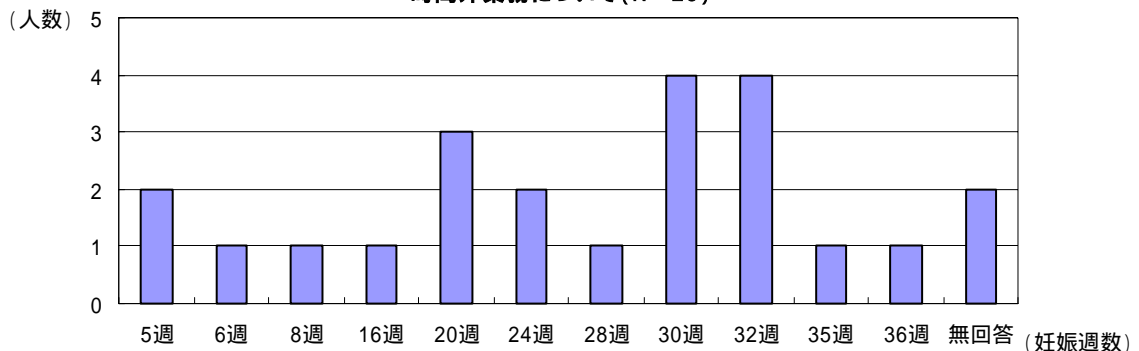
妊娠何週まで仕事は可能か？
時間内業務について (N=23)



時間外業務について

平均：妊娠 23.6 週で，妊娠初期から末期に渡って回答が分散したが，比較的多かったのが 20～32 週であった。

妊娠何週まで仕事は可能か？
時間外業務について (N=23)

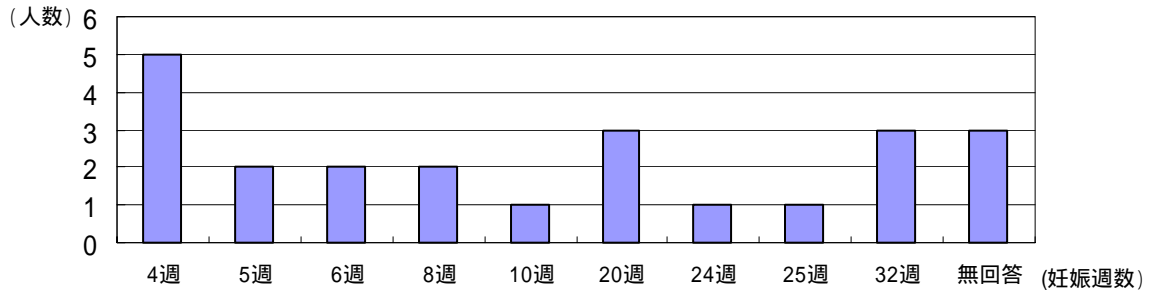


当直の業務について

平均：妊娠 13.7 週で、妊娠と診断されたらすぐ～妊娠初期から当直免除を望むが約 60%（12 名）、妊娠中期までが約 25%（5 名）、32 週までが約 15%（3 名）だった。

後出のように、つわり時期のつらさを思えば、妊娠初期からの当直免除を望んでいるのであろう。しかし最大 32 週までが限界というのが現状であると思われる。

妊娠何週まで仕事は可能か？
当直業務について (N = 23)



i. 妊娠中の健康診査は？

満足に受診できなかった人が 2 名（8.7%）いる。

	人数	割合 (%)
仕事を休んだ（有給休暇，病欠）	5	21.7
満足に健診は受けられなかった	2	8.7
仕事を休まずに健診を受けた（院内健診など）	16	69.6
計	23	100

j. 妊娠中に体調が著しく悪いときは？

無理して仕事をした人が半数余りおり，23 名中 13 名 いた。

	人数	割合 (%)
仕事を休んだ	10	43.5
無理をして仕事をした	13	56.5
計	23	100

k. 妊娠中の仕事はきつかったか？

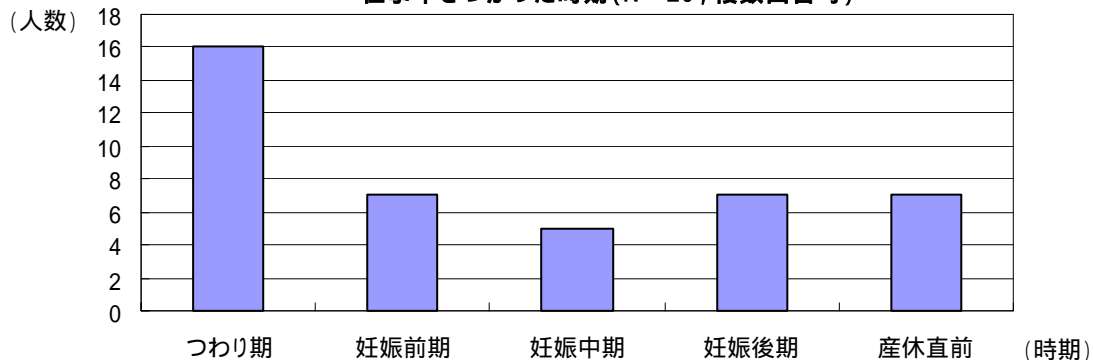
きつかったと答えた人が約 87% いる。

	人数	割合 (%)
きつくなかった	3	13.0
きつかった	20	87.0
計	23	100

きつかった時期

中でもつわり時期に約 80% がつらかったと訴えており，妊娠後期や産休直前がそれぞれ約 35%（20 名中 7 名づつ）がつらさを感じている。

仕事できつかった時期 (N = 20, 複数回答可)



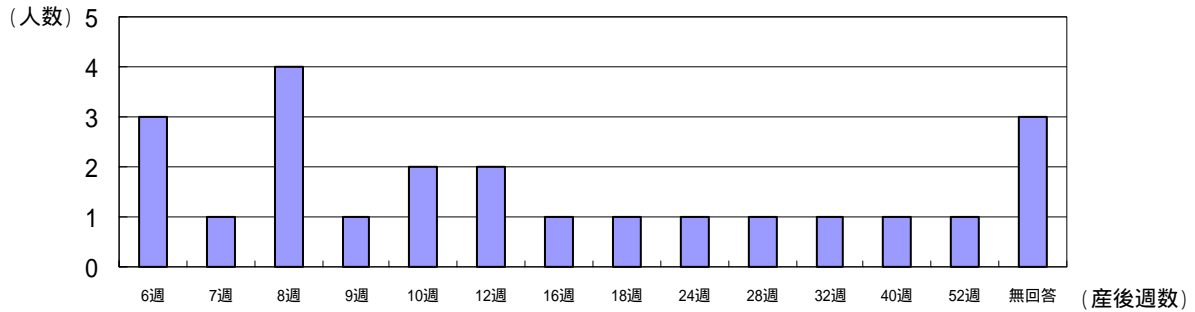
妊娠中の仕事が見つかった人の具体的症状

早産（1名）、身体のだるさと疲れやすさ（5名）、嘔気・嘔吐（3名）、切迫流産・切迫早産（2名）との回答があった。この中では身体のだるさと疲れやすさを訴える人が多かった。中には、つわり症状がひどく、外科系の仕事をあきらめて他の医局へかわった人や、周囲より精神的・肉体的被害を受けた、との回答もあった。

l. 出産後どのくらいで仕事に復帰しましたか？

回答したうち、平均は16.0週だった。産褥6週から1年まで広く分布している。多かったのは、8～12週での職場復帰である。

出産後どれくらいで復帰したか



m. 復帰後の仕事は産休前と同じ？

妊娠前と同様の仕事に戻った人が80%強を占めている。

	人数	割合 (%)	有効割合 (%)
全く同じ	7	30.4	36.8
しばらく軽減 元に戻った	9	39.1	47.4
全く軽減	1	4.3	5.3
もの足りないものに	2	8.7	10.5
無回答	4	17.4	
計	23	100	

n. 復帰後の周囲の反応は？

回答者20名のうち、多くは、好意的・協力的・理解ありと回答している。中には無理解（2名）、いやがらせ（1名）、という対応を受けている。

	人数	割合 (%)
好意的	10	50.0
協力的	13	65.0
理解あり	15	75.0
変わらない	3	15.0
無関心	2	10.0
わからない	0	0.0
いやがられた	0	0.0
無理解	2	10.0
いやがらせ	1	5.0

o. 主治医を担当していた患者は？

好意的または変わらない，と回答したのがほとんどだった。

	人数	割合 (%)	有効割合 (%)
好意的	10	43.5	66.7
かわらない	4	17.4	26.7
いやがられた	1	4.3	6.7
無回答	8	34.8	
計	23	100	

p. 妊娠したとき，また出産後に仕事を続けるうえで何が障害になると思ったか？または不安に思ったか？

(1) 自分の体力・精神力，(2) 産後の処遇，(3) 同僚の協力，(4) 仕事の遅れ，については，どの項目についても約半数が障害であり不安であると回答しており，約半数がそう思わないとの回答だった。育児休暇については，出産経験者では，不安材料の程度が，出産経験者でない人と比べ，少ないようである。

何が障害になると思ったか？または不安に思ったか？

回答数 (有効割合%)	とても気になる とても不安	障害になる 不安	障害にならない， 不安でない	無回答	計
自分の体力，精神力	4 (18.2)	9 (40.9)	9 (40.9)	1	23
産後の処遇	2 (9.1)	6 (27.3)	14 (63.6)	1	23
同僚の協力	3 (13.6)	8 (36.4)	11 (50.0)	1	23
仕事が遅れる	4 (18.2)	7 (31.8)	11 (50.0)	1	23
育児休暇など	0 (0.0)	6 (27.3)	16 (72.8)	1	23

7. 妊娠・出産を経験するなかで，とても助かったと思われた職場の環境，および職場の仲間との関係などの事柄がありましたら，是非ともお書きください。その他，ご意見があればお寄せください。

良かったこととしては

- ・ 上司の理解 (5名)
- ・ コメディカルを含む周囲の理解・好意的態度 (7名)
- ・ 産前産後の当直，および時間外業務の免除 (3名)
- ・ 職場内の保育施設 (3名)
- ・ 女性専用の仮眠室の整備 (1名)
- ・ 一時的に非常勤となり，その後常勤に戻れた (1名)
- ・ 市中病院 赴任中のお産であったため，理解が得られた (2名)
- ・ 当直免除をしてもらえた (3名)
- ・ 女医の多い科であり，参考になることが多かった (2名)
- ・ 代務を移動距離の近いところしてもらった (1名) であつた。

しかし，一方では

- ・ 看護職の無理解 (1名)
- ・ 女性上司の無理解 (1名)
- ・ 保育室は看護職のみ利用が前提 (1名) という回答もあつた。

他には

- ・ 妊娠前からしっかり働いていれば協力してもらえる (1名) という回答もあつた。